



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社マルイチ産商 上場取引所 名
 コード番号 8228 URL http://www.maruichi.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 藤沢 政俊
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 企画・管理部門統括 (氏名) 清野 昌彦 TEL 026-285-4101
 代行
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日 配当支払開始予定日 平成29年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	108,715	15.3	845	△3.2	1,149	7.7	710	1.3
29年3月期第2四半期	94,305	4.8	872	25.2	1,067	16.3	701	27.0

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 830百万円 (10.8%) 29年3月期第2四半期 750百万円 (16.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	30.87	—
29年3月期第2四半期	30.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	60,149	21,004	34.3
29年3月期	43,798	20,437	45.8

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 20,642百万円 29年3月期 20,075百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	3.00	—	11.00	14.00
30年3月期	—	3.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	11.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	220,000	16.5	1,970	20.5	2,400	19.4	1,200	0.6	52.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	23,121,000株	29年3月期	23,121,000株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	92,001株	29年3月期	102,139株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	23,023,942株	29年3月期2Q	23,048,459株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の向上や雇用情勢の改善傾向が続くなど、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、地政学的リスクの高まりによる国際情勢の不確実性や、将来への不安からの消費者の根強い節約志向など、先行き不透明な状況が続いております。食品流通業界におきましては、業種・業態を超えた低価格競争や、労働力不足に伴うコストの上昇など、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社グループは、今年度を初年度とする中期経営計画「変革2019～日本の中のマルイチを目指して～」で掲げた基本戦略の具現化へ全社グループを挙げて取り組んでおります。

外に向けた成長戦略「メーカー型卸事業の加速」「業務提携事業の拡大」につきましては、グループ内で連携を図りながら各事業が主体となって成果づくりに取り組んでおります。また、内なる経営基盤の再整備として「経営品質向上のための標準業務の確立」「全員活躍企業を実現する制度／働き方改革」を掲げ、全社レベルで事業構造改革を推進しております。「グループ企業とのシナジー創出」に向けましては、グループ各社の機能強化を図りながら、持続的成長に向けた取り組みを進めております。

なお、㈱丸水長野県水の株式を取得して平成29年4月3日付で子会社化いたしました。

以上のことから、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,087億15百万円（前年同期比15.3%増）となりました。利益面につきましては、営業利益8億45百万円（同3.2%減）、経常利益11億49百万円（同7.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益7億10百万円（同1.3%増）となりました。

[セグメント別の概況]

平成29年4月3日付で㈱丸水長野県水の株式を取得し、子会社化したことに伴い、新たに連結の範囲に含めております。これにより、「丸水長野県水グループ」を新たな報告セグメントとして新設しております。同セグメントは、丸水長野県水グループ（㈱丸水長野県水及びその子会社）のうち食品事業（平成29年10月1日付で当社食品事業に統合。食品事業は一般食品事業セグメントに含みます。）を除く事業にて構成しております。

※各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高を除いて記載しております。

<水産事業セグメント>

メーカー型卸事業による成長戦略の具現化に向け、水産部門における産地との連携による商品調達力の強化や養殖魚事業の推進、デイリー部門における洋菓子・和菓子などのオリジナル商品の開発と拡売、フードサービス事業部における顧客ニーズに合わせた業務用商品の開発を推進しました。しかしながら、サンマをはじめとする大衆魚の水揚げ量が減少した影響で生鮮魚の売上が低迷したことから、売上高につきましては630億11百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

利益面につきましては、受注・発注業務や物流業務等の改善に継続して取り組みましたが、水産物の水揚げ量減少と相場変動の影響等により、営業利益は3億48百万円（同19.7%減）となりました。

<一般食品事業セグメント>

山梨県でノンアセット型の物流拠点を7月から稼働するなど長野県外での営業体制の強化による事業エリアの拡大と、オリジナル商品の開発と拡売による事業領域の拡大を図ったことに加え、㈱丸水長野県水の食品事業を連結の範囲に含めたことにより、売上高につきましては148億9百万円（前年同期比10.5%増）となりました。

利益面につきましては、機能集約によるコスト削減への取り組みを継続して進める一方で、県外物流拠点の新設に伴う販管費の増加等もあり、営業利益は21百万円（同75.2%減）となりました。

<畜産事業セグメント>

産地やメーカーとの戦略的な取り組みによる商品供給基盤の拡大と、首都圏エリアや業務用マーケットへの販路拡大を図るなど、さらなる事業拡大を進めました。しかしながら、相場が高値で推移した国産牛肉・豚肉の需要が伸び悩んだことから、売上高につきましては153億71百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

利益面につきましては、コスト競争力の強化に向けた受発注業務の改善等に取り組んでおりますが、国産畜肉相場の高騰と輸入畜肉の低価格競争の影響等により、営業利益は2億50百万円（同6.5%減）となりました。

<丸水長野県水グループセグメント>

丸水長野県水グループは経営の自主性・独自性を維持しつつ、マルイチ産商グループと経営資源を共有することでシナジーを創出し、顧客ニーズに対応しながら機能の強化と最適化を図るなど、持続的成長に向けた取り組みを進めております。

以上の結果、売上高は148億38百万円、営業利益は1億81百万円となりました。

<その他(物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売及び保険代理店事業)>

子会社マルイチ・ロジスティクス・サービス(株)は、当社グループの物流業務・冷蔵倉庫事業の品質向上とローコスト体制の構築を、グループ内の各事業と連携しながら推進いたしました。

なお、小売店の店舗支援を事業とする子会社A E S(株)は平成29年3月31日に解散しており、連結の範囲から除外しております。

以上の結果、売上高は6億85百万円(前年同期比0.4%増)、営業利益は43百万円(同48.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は601億49百万円となり、前連結会計年度末と比較して163億50百万円の増加となりました。主な要因は、現金及び預金が46億80百万円、受取手形及び売掛金が79億83百万円増加したことによります。

負債は391億44百万円となり、前連結会計年度末と比較して157億83百万円の増加となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が129億44百万円増加したことによります。

純資産合計は210億4百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億67百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の45.8%から34.3%に減少しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は118億25百万円となり、前連結会計年度末と比較して46億53百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は46億95百万円となりました(前年同四半期連結累計期間に増加した資金は11億23百万円)。これは主に、税金等調整前四半期純利益が11億49百万円、減価償却費が3億52百万円となり、売上債権・たな卸資産・仕入債務からなる運転資本の改善により資金が38億27百万円増加したことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果増加した資金は94百万円となりました(前年同四半期連結累計期間に減少した資金は1億32百万円)。これは主に、有形固定資産の取得による支出が3億49百万円、投資有価証券の取得による支出が2億7百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入が1億61百万円、金銭の信託の償還による収入が5億円となったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は1億36百万円となりました(前年同四半期連結累計期間に減少した資金は3億36百万円)。これは主に、短期借入金の減少額が8億54百万円、長期借入れによる収入が18億50百万円、長期借入金の返済による支出が7億3百万円、リース債務の返済による支出が1億39百万円、配当金の支払額が2億53百万円となったことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の通期の連結業績予想につきましては、平成29年5月12日に発表しました業績予想に変更はありません。

※ 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,205	11,886
受取手形及び売掛金	14,435	22,418
商品及び製品	3,865	4,328
仕掛品	6	11
原材料及び貯蔵品	128	156
その他	2,626	2,999
貸倒引当金	△61	△86
流動資産合計	28,206	41,713
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,041	3,443
土地	7,846	8,592
その他(純額)	711	1,189
有形固定資産合計	11,599	13,225
無形固定資産		
のれん	—	393
その他	138	150
無形固定資産合計	138	544
投資その他の資産		
投資有価証券	2,565	3,026
退職給付に係る資産	—	284
その他	1,485	1,539
貸倒引当金	△196	△183
投資その他の資産合計	3,854	4,666
固定資産合計	15,592	18,436
資産合計	43,798	60,149
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,136	29,080
短期借入金	1,500	1,630
1年内返済予定の長期借入金	—	224
未払法人税等	439	405
賞与引当金	573	652
その他	2,662	3,310
流動負債合計	21,312	35,303
固定負債		
長期借入金	—	1,575
役員株式給付引当金	25	32
債務保証損失引当金	73	73
退職給付に係る負債	734	706
資産除去債務	85	86
その他	1,129	1,366
固定負債合計	2,048	3,841
負債合計	23,361	39,144

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,719	3,719
資本剰余金	3,385	3,385
利益剰余金	12,549	13,005
自己株式	△92	△83
株主資本合計	19,562	20,028
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	616	711
退職給付に係る調整累計額	△103	△96
その他の包括利益累計額合計	512	614
非支配株主持分	361	362
純資産合計	20,437	21,004
負債純資産合計	43,798	60,149

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	94,305	108,715
売上原価	85,306	97,497
売上総利益	8,998	11,218
販売費及び一般管理費	8,125	10,373
営業利益	872	845
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	47	48
受取賃貸料	97	166
その他	71	124
営業外収益合計	218	340
営業外費用		
支払利息	7	13
固定資産除却損	0	1
貸倒引当金繰入額	7	—
製品補償損失	—	14
その他	8	7
営業外費用合計	23	35
経常利益	1,067	1,149
特別利益		
賠償金収入	35	—
特別利益合計	35	—
税金等調整前四半期純利益	1,102	1,149
法人税、住民税及び事業税	356	378
法人税等調整額	12	41
法人税等合計	369	420
四半期純利益	733	729
非支配株主に帰属する四半期純利益	32	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	701	710

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	733	729
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	94
退職給付に係る調整額	8	6
その他の包括利益合計	16	101
四半期包括利益	750	830
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	717	811
非支配株主に係る四半期包括利益	32	18

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,102	1,149
減価償却費	288	352
のれん償却額	21	43
固定資産除却損	0	1
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2	△6
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△17	△18
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	—	△62
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△254	—
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	—	16
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△10	12
受取利息及び受取配当金	△48	△49
支払利息	7	13
売上債権の増減額(△は増加)	△674	△5,733
たな卸資産の増減額(△は増加)	316	△136
仕入債務の増減額(△は減少)	885	9,696
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△92	△395
その他の負債の増減額(△は減少)	10	153
その他	4	6
小計	1,537	5,044
利息及び配当金の受取額	47	48
利息の支払額	△7	△13
法人税等の支払額	△463	△384
法人税等の還付額	8	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,123	4,695
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△97	△349
無形固定資産の取得による支出	△17	△9
投資有価証券の取得による支出	△7	△207
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	161
貸付金の回収による収入	18	18
定期預金の預入による支出	△30	△27
定期預金の払戻による収入	12	—
金銭の信託の償還による収入	—	500
その他	△10	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△132	94
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△854
長期借入れによる収入	—	1,850
長期借入金の返済による支出	—	△703
リース債務の返済による支出	△85	△139
自己株式の取得による支出	△74	△0
自己株式の売却による収入	60	—
配当金の支払額	△207	△253
非支配株主への配当金の支払額	△17	△17
その他	△12	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	△336	△136
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	653	4,653
現金及び現金同等物の期首残高	5,225	7,172
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,879	11,825

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間において、A E S(株)は平成29年3月31日の解散に伴い、連結の範囲から除外しております。また、(株)丸水長野県水の株式を取得したことにより、同社及びその子会社であるマルゼンフーズ(株)、アスコット(株)、(株)エム・フーズ、(株)丸水運送センターを連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	水産事業	一般食品 事業	畜産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	64,573	13,403	15,644	93,621	683	94,305	—	94,305
セグメント間の内部 売上高又は振替高	364	17	304	685	1,965	2,651	△2,651	—
計	64,938	13,421	15,948	94,307	2,648	96,956	△2,651	94,305
セグメント利益	433	85	268	787	85	872	—	872

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、小売業の店舗支援事業、物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売・保険の代理店事業等を含んでおります。
 2. セグメント間取引消去によるものであります。
 3. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	水産事業	一般食品 事業	畜産事業	丸水長野 県水グル ープ	計				
売上高									
外部顧客への売上高	63,011	14,809	15,371	14,838	108,029	685	108,715	—	108,715
セグメント間の内部 売上高又は振替高	825	131	731	115	1,803	1,883	3,687	△3,687	—
計	63,836	14,940	16,102	14,953	109,833	2,569	112,403	△3,687	108,715
セグメント利益	348	21	250	181	801	43	845	—	845

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売・保険の代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、㈱丸水長野県水の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、「丸水長野県水グループ」を新たな報告セグメントとして新設しております。

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、マルイチ産商グループ（㈱マルイチ産商と㈱丸水長野県水グループを除く子会社、及び㈱丸水長野県水の食品事業）と丸水長野県水グループ（食品事業を除く㈱丸水長野県水及びその子会社）で構成され、マルイチ産商グループは、商品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う商品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。丸水長野県水グループは、現在の経営環境の継続を前提に、独立した経営単位として事業活動を展開しております。したがって、当社グループは、事業部を基礎とした商品・サービス別のセグメントである「水産事業」、「一般食品事業」及び「畜産事業」と、事業会社別セグメントである「丸水長野県水グループ」の4つを報告セグメントとしております。

「水産事業」は、水産物、水産加工品、日配品及び冷凍食品の販売と、水産加工品の製造を行っております。「一般食品事業」は、一般のドライ食品、一般加工食品及び菓子の販売を行っております。「畜産事業」は、畜産物及び畜産加工品の製造・販売を行っております。「丸水長野県水グループ」は長野県内エリアを中心に、食品卸売業を展開しております。

第1四半期連結会計期間より、各セグメントの売上高をより実態に近づけるため、セグメント間の内部売上高又は振替高の集計方法を変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報は、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

㈱丸水長野県水の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたため、前連結会計年度の末日に比べ、当第2四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、「丸水長野県水グループ」において7,109百万円増加しております。